

Jリーグ規格スタジアム整備計画検討委員会

第2回検討委員会議事概要

1. 日 時：令和7年2月7日（金）14:10～16:30
2. 場 所：エディオンピースウイング広島 多目的室 B2
3. 出席者：

—委員— （五十音順 敬称略）

池田	孝之	琉球大学 名誉教授
稲福	由乃	那覇市 企画財務部 企画調整課 参事兼企画調整課長
上林	功	追手門学院大学 社会学部社会学科 准教授
西坂	涼	琉球大学 国際地域創造学部 国際地域創造学科 観光地域デザインプログラム 講師
信江	雅美	株式会社イー・アール・ジャパン 事業開発担当部長 (元(株)サンフレッチェ広島 ピースウイング所長)
宮城	淳也	(一社)沖縄県サッカー協会 専務理事
宮里	一弘	沖縄振興開発金融公庫 融資第一部 地域振興班 課長
柳澤	大輔	琉球フットボールクラブ(株) 代表取締役社長

(欠席：濱本 想子 名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 准教授)

—オブザーバー— （五十音順 敬称略）

岩井	香寿美	(株)沖縄ウィメンズスポーツクラブ(女子サッカー・琉球 DEIGOS) 球団 取締役CMO
高原	直泰	沖縄SV(株) CEO
横松	篤志	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ) クラブライセンス事務局 施設推進担当

—事務局及び業務受託者—

沖縄県

デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社、株式会社 山下 PMC、株式会社
都市建築設計

4. 議題：
 - (1) 第1回検討委員会における意見への対応について
 - (2) 整備計画の策定方針について
 - (3) 施設計画及び事業スキームについて
 - (4) 県民・地域住民の巻き込みについて
 - (5) 概略設計について

5. 配布資料

- (1) 次第
- (2) 配席図
- (3) 参加者名簿
- (4) J リーグ規格スタジアム整備計画検討委員会 設置要綱
- (5) 資料1 第1回検討委員会における意見への対応
- (6) 資料2 整備計画の策定方針
- (7) 資料3 施設整備計画及び事業スキーム
- (8) 資料4 県民・地域住民の巻き込み方
- (9) 資料5 概略設計条件
- (10) 【参考】 J リーグスタジアム基準 2025 年度用（改定箇所記載版）

6. 議事概要：

(1) 第1回検討委員会における意見への対応について

- 質問・意見等無し

(2) 整備計画の策定方針について

■ 上位・関連計画について

- ・ 本スタジアムの目指す姿については、現状の上位計画ではなく、今後の上位計画に沿う形とすることが良いのではないかと。国ではスポーツ施設整備の一環として、スタジアム・アリーナ改革を推進しており、その中では従来型の「使う」スタジアムから「観る」スタジアムへの再編とともに、多機能複合化を目的としたスマート・ベニユーの考え方を打ち出している。現状の政策は観戦や体験を楽しむための『楽しむ』スタジアムを整備する方向である一方、現在進行中のスポーツ庁の検討においては、「観る」だけでなく、地域全体で賑わいを創出するスタジアムの整備を促進する方向性が示されている。また、本整備計画の上位計画に位置づけられている第2期沖縄県スポーツ推進計画は、国の第2期スポーツ基本計画を踏まえたものである一方、既に国の第3期スポーツ基本計画が公表されており、その中で「つくる／はぐくむ」「集まり、共につながる」「誰もがアクセスできる」という視点が示されている。この視点は本スタジアムで掲げる「県民と育てていく」という考え方や、FC琉球のビジョンにも合致するものと思料する。

■ スタジアムの目指す姿について

- ・ 本事業において非試合日も『賑わう』スタジアムを目指すことは適切である。その中で周辺エリアを含む複合的な機能を組み合わせた「スマート・ベニユー」の考え方を前提に、公共施設でありながら収益性の高い施設とするためには①経済的価値②社会的価値の2つを創出する必要があると思料する。①は施設使用料収入、広告収入、テナント収入、雇用の増加等が、②は地域の活性化、地域課題解決、環境・エネルギーへの貢献、新規ビジネスの創出、地産地消、健康、防災等が取り組みのテーマとなる。②についてタイトな事業スケジュールの中で、県民・地域住民のニーズを汲み取るためにも、あらかじめテーマを決めた上でワークショップ等を行うと効果的ではないか。

- ・ 経済的価値と社会的価値を対立概念として捉えるべきではないと考える。社会的価値の創出はたいへん重要であるが、年間を通して賑わうことを目指したスタジアムについては、長期のスパン（20 年以上）で賑わいを生まない施設は、社会的価値に該当していないものと思料する。例えば賑わい創出について、短期的に経済的効果を生む場合は経済的価値に分類されるが、長期のスパン（20 年以上）で周辺地域を含めて賑わいを創出し経済的効果を生む場合は社会的価値に値するものと考えられる。この際、長期スパンで経済的効果を生まない場合は社会的価値にも該当せず、特定の人物や団体にとって有益であっただけと考えられる。年間を通した賑わいの醸成を目指したスタジアムについては、長期で捉えた経済的効果に繋がる賑わいの創出を社会的価値と捉えることが重要である。
- ・ 『賑わう』スタジアムを目指す際に想定する賑わいの程度については、整備計画の中で KPI を設定し数値的に示すことが望ましい。単にスタジアムだけの賑わいを創出するだけでなく、近隣の商業事業者と連携し、周辺地域へ経済効果を波及させることが肝要となるため、数値的に KPI を設定し、広く告知することが必要となる。
- ・ 現在の陸上競技場の利用状況（社会人や中高生の部活等による陸上競技での利用）を踏まえ、一般市民の利用が継続できるようなコンコースの開放等を検討してほしい。また、既存イベント（NAHA マラソン等）についても継続実施できる形でスタジアムを整備してほしい。
- ・ 基本計画に掲載されている「国場川沿いのにぎわい施設のイメージ図」では、ウォーターフロントや屋台が描かれており、非常に期待が高まった。県民以外からも注目を集めるスタジアムとするためにはこのような取り組みが重要であると考えられる。

■ 整備計画の構成について

- ・ 本スタジアムが「県民と育てるスタジアム」である旨を、整備計画の目次を参照した県民が即座に理解できることが望ましい。そのため県民参加の考え方を示す章を設ける、各章に県民参加に関する項目を追加する等、章立てを工夫してほしい。

■ 整備計画策定スケジュール（案）について

- ・ ワークショップやパブリックコメント等の実施及び意見反映期間として 2～3 か月を想定しているが、一般的な事例を踏まえるとタイトである。期間の短い中でワークショップを有意義なものとするためには、本委員会ではテーマを提案することも必要である。また、12 月の FC 琉球のワークショップを整備計画公表後に継続実施するワークショップのキックオフとして位置づけることも検討できるのではないか。

(3) 施設計画及び事業スキームについて

■ 第 1 期事業におけるゴール裏（拡張用地）の利用について

- ・ 第 1 期事業においてゴール裏を拡張用地としているが、サッカーにおいてゴール裏の応援風景は試合観戦における風物詩であり、その様子を楽しみにしている来場者もあり、またスタジアムの臨場感の醸成に欠くべからざる要素であることから、メインやバックスタンドの集客にも影響する。そのため、第 1 期事業においてもゴール裏は応援可能な形で整備することが重要である。盛り上がり欠けるスタジアムという印象

が最初に広まってしまうと、それを払拭することは難しいため十分に留意する必要がある。

- ・ Jリーグとしては興行上危険であることから芝生席を推奨していない状況である。そのため第1期事業における拡張用地は、座席設置が難しい場合でも、最低限、段床を設ける形とし、サポーターの応援が可能な形とすることを検討してほしい。最初に段床として整備することで、後に座席を拡張する際に、跳ね上げ式の座席を安価な工事費で設置することも可能となる。
- ・ 臨場感創出のためにはピッチを取り囲む形で座席を設置することが望ましい。ゴール裏の応援スタイルはチーム毎に異なるため一概には言えないが、可能であれば応援可能な余地を残してほしい。

(4) 県民・地域住民の巻き込み方について

■ FC琉球の取り組みについて

- ・ FC琉球主催のみんなのFC琉球かいぎでは、2024年3月から月1回程度の頻度で開催されており、主としてプレストワークショップが行われている。プレストワークショップでは参加者がテーマをジブンゴトとして捉えることが重要である。12月に新スタジアムに関連する2つのテーマ（FC琉球サポーターが喜ぶ新スタジアムのアイデア、試合が無い日も行きたくなる新スタジアムのアイデア）についてプレストワークショップが開催され、非常に多くのアイデアが上がった。今後の巻き込み案として、FC琉球サポーター以外も対象に含めた大人数でのプレストワークショップの開催が望ましいと考えている。加えて整備計画公表後も定期的にプレストワークショップを開催し機運醸成を図ることが望ましく、運営開始後もスタジアムの使い方をテーマとすることが望ましい。また、本スタジアムの中にプレストワークショップの開催場所としても利用可能な県民の集会場を設置できると良いのではないかな。

■ 県民・地域住民を巻き込む施設とする取り組みについて

- ・ 非試合日の収益向上策を検討すること、サッカーファンだけでなく県民・地域住民を巻き込む施設とすること、観光客にも魅力的な施設とすることの3点が重要である。
- ・ 県民・地域住民向けの取組としては、セカンドホームとして、大型ビジョンで琉球ゴールデンキングスを始めとする他競技の試合を観戦できるようにすることが考えられる。サッカーファンだけでなく幅広い層を取り込むための工夫が重要である。
- ・ また、社会的価値のテーマの一つとして挙げた地域課題解決に資する施設をテナントとして誘致することも考えられる。例えば、先進の通信技術を活用して県外のトレーナーから遠隔指導を受けられるトレーニング施設を設置することで、沖縄の地理的不利性を克服し、スタジアムをスポーツの拠点化することができるのではないかな。県民・地域住民の日常利用を促進する施策を打ち出すため、幅広い層のニーズをどのように汲み取るかが課題であると認識している。
- ・ 観光客向け取組としては、ARやVRを活用した没入型のエンターテインメント施設を設置することも一案となる。

■ 事業関係者の枠組みの構築について

- ・ 本スタジアムにおける賑わい創出の参考事例として豊島区の南池袋公園が上げられる。南池袋公園は地元のカフェが業務委託を受けて出店しており、その売上の一部を南池袋公園の運営組織である「南池袋をよくする会」に還元するという枠組みを構築している。「南池袋をよくする会」は施設運営者である民間事業者や豊島区、町会代表等により構成されており、定期的に会合を行うことで課題を解消する場となっている。このように運営事業者を含む関係者が定期的に会話できる枠組みを構築し、それを運営段階でも継続することは本スタジアムにおいても取り入れられるのではないかと。

■ スタジアム運営について

- ・ 指定管理者制度の弾力的な制度運用の成功事例として、Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島やエディオンピースウイング広島が挙げられる。Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島は運営権対価としての負担金は無いが、実質的にはコンセッション方式に近い部分がありエディオンピースウイング広島はその変形であると言える。エディオンピースウイング広島においては、バックスタンド側の公園に面して、複数の多機能化施設の設置を実現している。そのような前例も参照しつつ、収益向上の観点からも検討を進めることが望ましい。
- ・ テナントについて、既存商業施設の中にテナントを募集する場合は、事業者側が集客実績等を基に事業計画を策定可能であることから参画のハードルが低い。他方で新設のスタジアムの場合は実績数値が無いと、明確に集客が見込めることを示さなければ、事業者は参画に踏み切ることが難しい点に留意する必要がある。

(5) 概略設計について

■ アメリカのスタジアムについて

- ・ サッカースタジアムに限らず、アメリカのプロチームのホームスタジアムは、仕様の程度により整備費の高低はあるものの諸室や機能のフォーマットの同一性が特徴的であり、一例としてどんなにローコストで建造したスタジアムにもVIP席が設置されている。これはアメリカのプロスポーツを実施するスタジアムが共通して観戦や楽しむことに主軸を置いていることに起因している。

■ 避難出口について

- ・ スタジアムの避難出口の幅について、詳細は設計時に検討する形となるが、関係法規を把握しておく必要がある。他のスタジアムでは、仕様規定に適合しないためにコンコースを複数設けているケースもある。本スタジアムをワンコンコースとする上では、関係法規を満たすことができるかどうかは予め把握することが望ましい。

■ スタジアムの賑わいのしみ出しについて

- ・ 現状のゾーニングでは、スタジアム、国場川、広場エリアがそれぞれ分断されている印象を受ける。奥武山公園の中で賑わいを創出するためには、人が滞留する空間を作ることが重要であると考えられる。そのため、民間収益施設をスタジアム内のみに閉じ込めず、スタジアムの賑わいが広場エリアや国場川沿いにもしみ出す形としてほしい。
- ・ 現状、広場や国場川へのしみ出しや繋がりを意識して施設配置等が検討されている認

識だが、その点が明確に伝わるよう整備計画の中で表現する必要があると思料する。

(6) Jリーグスタジアム基準（2025 年度用）について

■ 主な改定箇所について

- ・ 2025 年度用の主な改定箇所は入場可能数、車椅子席に関する基準である。入場可能数については、段階整備等を許容し「理想のスタジアム」要件の活用を推進する目的で、「原則として」という文言を追加している。これは、段階整備部分（芝生エリア、立見席等）の屋根設置等について、初期段階では必ずしも必要としないと解釈できるようにする意図である。車椅子席については国のバリアフリー基準の改定に準ずる形で要件を追加したものである。

(7) 委員会全体に関する意見・質問事項について

■ ホームクラブの役割について

- ・ 賑わいのあるスタジアムを整備する上で、ホームクラブが地域及び社会に貢献する役割を担うことが重要となる可能性がある。エディオンピースウイング広島が成功を収めているのは、サンフレッチェ広島が地域及び社会に資する活動を行っていることが要因であると考ええる。本スタジアムに置き換えた際、サポーター以外の県民・地域住民を対象としたワークショップの実施については FC 琉球がキーパーソンとしてその役割を果たすことができるのではないかと考える。

■ 県民・地域住民の意見の要求水準への反映について

- ・ ワークショップ等で上がった県民・地域住民の意見を、スタジアムの要求水準としてどのように反映するかは今後の課題である。これは本スタジアムに限定的な課題ではないため、継続的に検討する必要がある。デンマークの図書館である Dokk1 では子ども達の意見を 5 つの方針として掲げ、そのうちの 2 つ若しくは 3 つを提案に取り入れることを事業者に対する要求水準として提示した例がある。

以上